慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「『魯迅雑感選集』序言」から見た瞿秋白の魯迅評価とその歴史的意義
Sub Title	Qu Qiubai's view of Lu Xun seen in "Preface to Lu Xun's selected essays"
Author	長堀, 祐造(Nagahori, Yuzo)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	瞿秋白は陳独秀の要請で革命ロシアでのジャーナリスト生活を終え, 帰国して中共指導者に転じた。その陳独秀の失脚後, 中共指導者となった瞿秋白はその後, スターリン派党中央から排除された。以後, 左翼文化運動で活躍, 魯迅と親交を持った。1933年に編集した『魯迅雑感選集』への「序言」は, 左翼的魯迅像の嚆矢として, 毛沢東の魯迅観に大きな影響を与えた。本研究ではこの「序言」の歴史的評価を定位することにあったが, 本年度は以下のような実績を残した。 1. まず, 新版『瞿秋白文集』第6巻のテキストによって, 日本語新訳を試み, これを1936年の鹿地亘・ 日高清麿瑳訳, 及び1952年の金子二郎訳と比較検討した。その結果, 前者はかなりの誤訳を含み, 後者は訳文こそ前者より優れているが, 当時の研究の制約もあり, 付注においては不足点が目立つことがわかった。新訳の必要性が明らかになったのである。 2. さらに, 当初の研究計画にはなかったのであるが, 瞿秋白研究, 現代中国文学研究, 中共党史研究の上で, 謎となってきた瞿秋白の遺書「多余的話」について, 判明したことがあった。それは, 「中国の豆腐は最高だ」という, きわめて革命家瞿秋白らしからぬ最後の言葉が, 何に由来するかということである。本研究の結果, これは, 瞿秋白の妻, 楊之華の小説「豆腐阿姐」と関係があるのではないかということである。この小説の原稿は魯迅が目を通したものであり, 掲載誌『北斗』第2巻第2期(1932年5月)に掲載されたが, この号には, 瞿秋白, 魯迅が執筆し, さらに彼らと親しい共産党員の文学者, 馮雪峰がこの小説の批評を書いているのである。つまり, 「豆腐」という記号は, 残された楊之華, 魯迅, 馮雪峰らに『北斗』の当該号を想起させる役割を持ったはずで, この記号によって, 瞿秋白は彼らに別れを告げたという可能性が見えてくるのだ。 3. 1に関しては, 瞿秋白の「序言」を含む瞿秋白編『魯迅雑感選集』の新訳日本語版を平凡社から出版する計画を企画中である。2に関しては, 現在論文を準備中である。周辺事項を含め, 今年度中に刊行する予定である。 I translated Qu's preface to "Lu Xun's Selected Essays" by the new text contained in the "Qu Qiubai's Selected Works of Literature" Vol.6.And I tried to compare it with the two previous Japanese versions.One of them proved to have many uncorrect points and the other proved to be lack of notes that should have had. Moreover,I found the mystery of Qu Qiubai's will. I am going to publish the new Japanese version of "Lu Xun's Selected Essays" containing Qu's preface and to write an article about Qu Qiubai's will to solve the mystery in it.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170045

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2017 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2018 年 3 月 26 日

研究代表者	所属	経済学部	職名	教授	補助額	200 （B）千円
	氏名	長堀 祐造	氏名（英語）	NAGAHORI YUZO		

研究課題（日本語）

「『魯迅雑感選集』序言」から見た瞿秋白の魯迅評価とその歴史的意義

研究課題（英訳）

Qu Qiubai's view of Lu Xun seen in "Preface to Lu Xun's Selected Essays"

１．研究成果実績の概要

瞿秋白は陳独秀の要請で革命ロシアでのジャーナリスト生活を終え、帰国して中共指導者に転じた。その陳独秀の失脚後、中共指導者となった瞿秋白はその後、スターリン派党中央から排除された。以後、左翼文化運動で活躍、魯迅と親交を持った。1933 年に編集した『魯迅雑感選集』への「序言」は、左翼的魯迅像の嚆矢として、毛沢東の魯迅観に大きな影響を与えた。本研究ではこの「序言」の歴史的評価を定位することにあったが、本年度は以下のような実績を残した。

1. まず、新版『瞿秋白文集』第6巻のテキストによって、日本語新訳を試み、これを1936年の鹿地亘・日高清麿瑳訳、及び1952年の金子二郎訳と比較検討した。その結果、前者はかなりの誤訳を含み、後者は訳文こそ前者より優れているが、当時の研究の制約もあり、付注においては不足点が目立つことがわかった。新訳の必要性が明らかになったのである。

2. さらに、当初の研究計画にはなかったのであるが、瞿秋白研究、現代中国文学研究、中共党史研究の上で、謎となってきた瞿秋白の遺書「多余的話」について、判明したことがあった。それは、「中国の豆腐は最高だ」という、きわめて革命家瞿秋白らしからぬ最後の言葉が、何に由来するかということである。本研究の結果、これは、瞿秋白の妻、楊之華の小説「豆腐阿姐」と関係があるのではないかということである。この小説の原稿は魯迅が目を通したものであり、掲載誌『北斗』第2巻第2期（1932年5月）に掲載されたが、この号には、瞿秋白、魯迅が執筆し、さらに彼らと親しい共産党員の文学者、馮雪峰がこの小説の批評を書いているのである。つまり、「豆腐」という記号は、残された楊之華、魯迅、馮雪峰らに『北斗』の当該号を想起させる役割を持ったはずで、この記号によって、瞿秋白は彼らに別れを告げたという可能性が見えてくるのだ。

3. 1に関しては、瞿秋白の「序言」を含む瞿秋白編『魯迅雑感選集』の新訳日本語版を平凡社から出版する計画を企画中である。2に関しては、現在論文を準備中である。周辺事項を含め、今年度中に刊行する予定である。

２．研究成果実績の概要（英訳）

I translated Qu's preface to "Lu Xun's Selected Essays" by the new text contained in the "Qu Qiubai's Selected Works of Literature" Vol.6.And I tried to compare it with the two previous Japanese versions.One of them proved to have many uncorrect points and the other proved to be lack of notes that should have had.

Moreover,I found the mystery of Qu Qiubai's will.

I am going to publish the new Japanese version of "Lu Xun's Selected Essays" containing Qu's preface and to write an article about Qu Qiubai's will to solve the mystery in it.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
長堀祐造	陳独秀の中共「復党」・協力問題と「トロツキー派に答える手紙」	『日吉紀要　中国研究』	第 11 号　2018 年 3 月
長堀祐造	陳独秀早稲田留学についての一考察	早稲田大学『中国古典籍研究』	稲畑耕一郎教授退休記念号　2018 年 2 月
長堀祐造	王凡西の永続革命論と陳独秀の民主思想	『ロシア革命 100 年シンポジウム報告集』（仮題）所収	柘植書房新社 2018 年 4 月刊行予定